

船橋市野球協会少年学童部・大会特別規則

1. 投手に関する事項

- (1) 投手の投球数は、1試合70球、1週間210球までとする。
1日に2試合行う場合についても、1日70球とする。
なお、特別延長戦における投球数も前述の投球数に含まれる。
また、投手が70球を超えて投球した場合、この誤りを発見した時点で、次の投手がアウトカウント並びにストライク及びボールカウントを受け継いで試合を続ける。
試合中規程投球数に達した場合、その打者が打撃を完了するまで投球できる。
ボークにかかわらず投球したものは、投球数に数える。
 - (2) 低学年大会においては、1試合60球、1週間180球とする。
 - (3) 5年生以上の大会において、4年生以下が投球する場合も60球とする。
 - (4) 投手は初回（救援を含む）に限り、5球以内の準備投球が許される。
次回からは3球以内とする。
- ※ 1週間の球数制限は、選手のケガ防止の観点から他試合や練習も考慮し対応いただくことを要望致します。

2. 捕手に関する事項

- (1) シートノックならびに準備投球を捕球する際は、正規の捕手及び控え捕手とも規約に定めた捕手の用具を身につける。
- (2) 用具を全て着用していない場合は、立って捕球すること。

3. 打者に関する事項

- ・指名打者ルールを使用することができる。[注意：詳細は2026競技者必携参照(p55～p56)]

4. グラウンドルールに関する事項

- (1) ボールデッドになった場合のルールは下記の通り野球規則に準ずる。
 - ・フェアの打球がバウンドしてデッドになった場合
⇒打者及び走者には2個の塁が与えられる
 - ・投球がデッドになった場合⇒走者には1個の塁が与えられる
 - ・野手の送球がデッドになった場合
⇒打者及び走者には野手の送球時の走者の位置から2個の塁が与えられる
- (2) 野手が飛球を境界線を越えずに正規に捕球した後、境界線を越えた場合は、ボールデッドとなり走者は安全に一個の進塁が許される。
ただし、ダイビングキャッチを試み上体が境界線を越えた場合はボールインプレーとする。

5. 監督（30）およびコーチ（29、28）に関する事項

- (1) 監督およびコーチが、投手の投球練習の捕手（ブルペン含む）を行うことができる。ただしマスク着用としマスク無しの場合は立って行うこと。
- (2) 低学年大会に限り監督及びコーチが、ベースコーチをすることができる。
（B o x 内に立てるのは1名のみ、指導者/選手2名立ちは不可）

6. 特別延長戦に関する事項

継続打順とし、
無死一塁・二塁（前回最終打者を一塁走者、その前の打者を二塁走者）から、投手の投球制限を遵守の上、勝敗が決するまで行う。

7. タイムについて

- (1) 守備側タイム
 - ・監督タイムと野手（捕手含む）タイムを各々独立カウントとし、各々1試合Max 3回。
注：投手交代の場合の未カウントタイム取得の場合、監督は白線を越えず先に審判に交代を告げベンチに戻る。交代を告げる前後でマウンドに行った場合タイムカウントとする。
 - ・低学年大会は各々1試合Max 2回。
- (2) 攻撃側タイム
1試合Max 3回。
※延長戦は各タイム1イニングにつき1回取得可。

8. ボークについて

全ての大会において規則どおりペナルティーを適用する。

2013年 3月10日改訂
2016年 5月21日改訂
2017年 3月12日改訂
2019年 4月 1日改訂
2020年 4月 1日改訂
2022年 4月 1日改訂
2023年 4月 1日改訂
2024年 4月 1日改訂
2025年 4月 1日改訂
2026年 4月 1日改訂